

平成26年産りんごの予想収穫量について (平成26年8月1日現在)

1 作柄概況

りんごの作柄は、一部で霜やカラマツ（不受精花や不稔花）による影響が見られたものの、全般に十分な着果量となっている。また、果実肥大は、平年をやや上回っている。

2 予想収穫量調査結果の概要

予想収穫量は、前年収穫量を4万2,000トン上回る45万4,000トンが見込まれる。

品種別では、つがるが前年を3,700トン上回る4万9,200トン、ジョナゴールドが前年を2,300トン上回る4万3,700トン、王林が前年を600トン上回る4万7,500トン、ふじが前年を1万5,000トン上回る21万9,800トンとなった。

表 平成26年産りんごの予想収穫量

区分 品種	結果樹面積 (ha)	予想収穫量 (t)	前年収穫量 (t)	前年対比 (%)
つがる	2,290	49,200	45,500	108
ジョナゴールド	2,060	43,700	41,400	106
王林	2,200	47,500	46,900	101
ふじ	9,770	219,800	204,800	107
その他	3,680	93,800	73,400	128
計	20,000	454,000	412,000	110

※1 結果樹面積は、りんご果樹課推定値

※2 予想収穫量は、平成26年7月29日～8月1日に調査した着果数、肥大状況などから推計

※3 前年収穫量は、国公表の実績値

※4 前年対比は、前年収穫量に対する比率

3 今後の対応

- (1) 高品質りんごの生産に向けて、8月22日に、生産指導者を参集して対策会議を開催し、果形の悪いものや障害果などを中心に見直し摘果や樹上選果を徹底する。
- (2) 早い時期からの強い葉摘みは、鮮やかな色がつかないばかりか食味の低下につながるので行わない。
- (3) 熟度調査結果を活用して、食味の良い果実を適期に収穫する。
- (4) 台風等の気象災害対策を徹底する。